

奥羽大学報



正門の案内板



赤川学長、会場へ



高校生たち、会場へ



そくそくと受付に

オープンキャンパスの風景



「奥羽大学」を説明する赤川学長

目次

無垢サロン/お知らせ	2
夢ナビライブ/街なかライブ/出張講座	3
夏のオープンキャンパス/秋のオープンキャンパス開催日/奥羽大now	4
第23回奥羽大学公開講座のお知らせ/献体者合同慰霊式/	
第22回奥羽祭のお知らせ/部活動成績	5
歯学部研究紹介/薬学部研究紹介	6
歯科医学教育者ワークショップ/佐藤瑛典君が優秀ポスター賞受賞/	
歯学部父兄会地域会/慶熙大学との交流	7
自著を語る/基礎棟1階実習室TVモニターシステム更新/	
薬学部新カリキュラムに関する意見交換会/交通安全講習会/	
薬学部1年生の早期体験学習/薬学部第1回教育研修・講演会	8
薬学部6年生特別実習発表会/薬学部の課外補講/	
薬学部就職先一覧(平成26年3月卒)/第57回奥羽大学歯学会	9
IADR参加報告/第2回・第3回大学院特別研修セミナー/	
大学院研究経過発表会/学位論文をリポジトリで公開	10
奥羽大学若手奨励研究の採択/科研費採択状況(再掲載)	11
スポット学生会	12
附属病院	13
学校法人晴川学舎 平成25年度決算報告	14
追悼	15
同窓会だより/同窓生のひろば	16
人事	17
平成27年度入学試験日程	18



五 省

学長 赤川 安正

座右の銘は何ですか、とよく聞かれるが、特別なものはない。ただ、広島大学での教授職の20年間、絶えず自らに言い聞かせ、教室員に常に胸に刻むよう指導した言葉がある。「五省」(Five reflections)という。これを教室是とし、全員一丸となって「世界有数の歯科補綴学教室になる」ことを目指し、IADRの受賞でそれが実現した。

「五省」は私が生まれ育った広島県呉市の沖に浮かぶ江田島にあった海軍兵学校での教育の規範である。戦後アメリカ海軍司令官がこの「五省」の精神に感銘し、アメリカ海軍兵学校に持ち帰り現在でも教えられていると聞く。私は軍隊を崇拜する者ではまったくないが、「五省」は当時のエリート(すなわち、自らが自らを律する)の精神の涵養・立ち居振る舞いの基本を示したもので、ノブレス・オブリージュにつながる。

「五省」

1. 至誠にもとるなかりしか(誠実に振る舞ったか)
Hast thou not gone against sincerity?
2. 言行に恥ずるなかりしか(言動に恥じることはなかったか)
Hast thou not felt ashamed of thy words and deeds?
3. 気力に欠くるなかりしか(気力に欠けることはなかったか)
Hast thou not lacked vigor?
4. 努力にうらみなかりしか(できる限りの努力をしたか)
Hast thou exerted all possible efforts?
5. 不精に亘るなかりしか(怠惰に流されなかったか)
Hast thou not become slothful?

本学は人間性豊かな歯科医師と薬剤師の育成を目標としており、将来地域でのリーダーとなる学生諸君には、是非この「五省」を毎日心に留めてほしい。誠実に、恥ずべき言動なく、全力でできる限りの努力をする、そして努力が報われ自らの夢が実現する、そのような展開こそ、人生を豊かにする。

凜として前のみを見つめて進んでほしい、と強く願う。そういう自分も「五省」を心に懸けてひたむきに努力を続けたい。

お知らせ

授業料全額免除の特待生制度を創設します

奥羽大学は、優秀な学生を支援して、未来をリードする歯科医師、薬剤師を育成したいと念願しております。本学への進学を経済的理由で断念する若者を無くしたいとも考え、このたびに在学6年間の授業料を全額免除する特待生制度を、2015年度入学試験から導入します。

この試験は平成27年1月25日(日)に本学キャンパスで実施します。

募集人員は歯学部、薬学部それぞれ30名です。人物、成績、健康ともに優秀で、他の学生の模範となる者を特待生として選抜します。特待生の第2学年以降の継続については、年度末の進級審査により判定します。

※詳しくはホームページをご覧ください。http://www.ohu-u.ac.jp/

夢ナビライブ

7月12日(土)、本学は東京ビッグサイトで開催された「夢ナビライブ」に参加した。「夢ナビライブ」とは、全国各地の国公立大学(今年度の参加は207校)教員が一堂に会して行う生の講義を、高校生たちが自分の興味に応じて聴講でき、また大学個別ブースで相談できる催しである。

本学からは、歯学部廣瀬公治教授が「歯周病と糖尿病との意外な関係」、薬学部柏木良友教授が「人間のからだにやさしい薬を!」と題して、多数の生徒を前に講義を行った。講義ライブに興味をもった高校生が質問コーナーに立寄り質問をしている風景も見られた。また、本学の「進学相談コーナー」にも生徒たちが訪れ、大変有意義な参加であった。

次回の「夢ナビライブ」は10月4日(土)、仙台市の夢メッセみやぎにて、今回と同じように歯学部廣瀬公治教授と薬学部柏木良友教授が同一テーマで講義を行う予定。



街なかライブ

本学の教育・研究等を市民の方々に情報発信する「街なかライブ」の講演会が次の日程等で行われた。

6月21日(土) 福島市福島文化センター

清野和夫教授(歯学部)「歯からはじめる健康長寿」、堀江均教授(薬学部)「感染症から身を守るには・トリインフルエンザとポリオの話題を中心に」

6月28日(土) 会津若松市会津アピオスペース

濱田智弘講師(歯学部)「本当は怖い口の病気—セルフチェックで口腔がんを早期発見」、竹元万壽美教授(薬学部)「本当に『為になる』お茶の話」

両会場とも大勢の参加者があり、講演中・講演後に質問が多く寄せられた。



出張講座

8月30日(土)、山形テルサにおいて「出張講座」が開催された。歯学部は川合宏仁准教授による「その日に帰れる歯科治療のための全身麻酔」、薬学部は小谷政晴教授による「神経幹細胞と脳の再生」の2つの講座が行われ、意外と知られていない「最新医療」についても紹介された。参加者からは様々な質問が寄せられた。



夏のオープンキャンパス

6月14日(土)、7月26日(土)、8月10日(日)、8月23日(土)の4回にわたり、夏のオープンキャンパスが開催された。開催日ごとに「授業体験」「実習体験」「キャンパス見学」などメインテーマを設けた。授業体験や実習体験では、できる限り実際に行われている授業や実習に近いものをプログラムとした。

昼食前後には個別相談が行われ、来たる1月よりはじまる「特待生選抜試験」の話題など、熱心に相談する姿が見られた。



秋のオープンキャンパス開催日

期日	時間	内容
10月19日(日)	9:30～11:00	個別相談 ※奥羽祭開催中
10月25日(土)	9:30～12:00	学部紹介 入試説明会 学食体験 個別相談

※両日も予約不要です。10月25日(土)のみ郡山駅～大学間の無料送迎バスを運行します。

奥羽大 now

国試夏の陣スタート!

授業開始前の清々しい朝の時間を上手く利用して、奥羽大生は国家試験合格に向けて、勉強をスタートしております。なっ、何と朝の太陽をいっぱい浴びた薬学部棟3階の自習室(531室)では、過去に出題された国家試験問題を黙々と、一生懸命解いている学生の姿が、チラホラ。おやっ。廊下を隔てた奥の部屋(536室)からは、何やら、学生の元気な声がするではありませんか! こっそり覗いてみると、黒板に向かって、学生が学生に勉強を教えていました。一方、図書館に眼を向けてみると、2階に新たに設置された「薬学部国試コーナー」でも本を借りて勉強している姿が見られました。図書館の人気スポットのようですね。心強い思いをしました。6回生は蝉の声にも負けないよう、一生懸命勉強しており、日々、良い汗をかいているようです。

夢と希望に満ちあふれた薬剤師の卵に、皆様からのエールをお待ちしております。



元文学部太田教授テレビ出演

8月上旬、元文学部教授(漢文学担当)・太田彌一郎先生がNHKプレミアム「英雄たちの選択」(BSプレミアム毎週木曜 午後8時～9時)のインタビュー取材を受けました。撮影は、本学図書館館長室で行われ、図書館の資料の撮影もされました。この放映は9月18日(日)、テーマは「蒙古襲来」です。番組内で研究者の一人としてインタビューが紹介されます。

この発端は太田先生が約20年前、本学図書館が所蔵する北京図書館編の『石刻史料』を解読して書かれた、蒙古襲来に関する「賛皇復県記」についての論文がきっかけとなりました。太田先生はこの資料の中で蒙古襲来に関する新事実を発見されたようです。歴史のミステリーロマンを感じてしまいます。

暗幕で薄暗くした部屋の中で、照明やカメラ等のたくさんの機材に囲まれ、緊張された様子の太田先生。エアコンの音が撮影の邪魔にならないよう冷房も消され、スーツにネクタイ姿で汗を浮かべながら、インタビューに応えておられました。

太田先生の凛々しいお姿を、ぜひ、ご覧ください!



第23回奥羽大学公開講座のお知らせ

今年度の公開講座は、9月13日(土)から10月11日(土)にかけての土曜日、総合テーマ「奥羽大学発健康宣言2014」のもと、下記の8講座を開設します。時間は各日とも、間に休憩を挟んで午前9時30分～11時45分です。参加無料、予約不要です。どなたでも聴講できます。

総合テーマ：奥羽大学発健康宣言2014

場所：奥羽大学第3講義棟

開催日	学部	講師名	講座名
9月13日(土)	歯学部	木村裕一 教授	歯は何のためにあるの? -歯の存在意義を考える-
		安部仁晴 助教	活性酸素はジキルか?ハイドか?
9月20日(土)	薬学部	井上忠夫 教授	がん治療の最前線 -安全で安心ながん治療を受けるために-
		中村郁子 教授	薬の上手な使い方を教えます
10月4日(土)	薬学部	河野晴一 教授	オーダーメイド治療とゲノム薬理学とはなに?
		西屋 禎 教授	からだの中で作られるガス状分子とその驚くべき役割とは?
10月11日(土)	歯学部	馬場麻人 教授	歯と顎(あご)の骨の切っても切れない関係
		関根秀志 教授	歯科インプラント治療を正しく理解しよう -よく噛めるお口で健康長寿-

献体者合同慰霊式

平成26年度奥羽大学献体者合同慰霊式は6月1日(日)、郡山市内にある霊鷲山常居寺の慰霊碑前において執り行われた。

平成25年度成願者のご尊名が拝誦され、霊札納塔の儀が行われた後、赤川学長、学生代表が追悼感謝の言葉を述べ、続いて参列された方々、本学学生による献花が行われた。ご献体くださった方々ならびにご遺族に感謝し、参列者全員でご冥福を心からお祈りした。



第22回奥羽祭のお知らせ

奥羽祭テーマ「カラフル」

10月18日(土)	
11:00～15:00	模擬店・室内展示・ロック研究会ライブ
11:30～12:30	絵心コンテスト
13:00～14:00	〇×クイズ
14:30～15:00	パフォーマンスコンテスト
10月19日(日)	
11:00～15:00	模擬店・室内展示・ロック研究会ライブ
14:00～15:00	スペシャルトークイベント 重盛さと美(無料)
15:00～	BINGO大会

部活動成績

バドミントン部

東北5大学定期戦 6月7日(土)・8日(日)
 (豊田市スカイホール豊田)
 男子 準優勝
 女子 準優勝

競泳部

全日本歯科学学生総合体育大会 8月10日(日)
 (鹿児島市新鴨池公園水泳プール)
 男子100m平泳ぎ 歯学部4年 河村享英 6位
 男子200m平泳ぎ 歯学部4年 河村享英 4位

歯学部研究紹介**光増感剤を応用したレーザーによる根管内細菌検査法の有用性に関する研究**

歯科保存学講座歯内療法学分野 教授 木村裕一

現在、根管治療をするときに根管内が無菌状態になったかどうかを判断する方法として、細菌培養試験が行われている。しかし、細菌培養試験は感度が悪くて時間を1〜2日ぐらい必要とすることから、臨床的には感度がさらに良く、時間に関してもすぐに判別できるような別の方法が望まれている。近年、ナノテクノロジーの研究が進み、光増感剤のナノ粒子を作製して陽性に電荷を与えることができるようになり、陰性の電荷を持つ細菌の表面に電気的に付着させることで、菌体内に取り込ませるより短時間で細菌と光増感剤を結合させることができるようになった。そこで生分解性ポリマーである(ラクチド-CO-グリコリド)共重合体(PLGA)を担体としてナノ粒子化してメチレンブルー(ピーク波長610 nmと665nmの2波長)で染色した後、検出する器械としてDIAGNOdent®(波長655 nm)を使用して細菌の存在との関連性を調べたところかなりの相関性があった。しかしながら、臨床応用するとなるといくつかの問題点が存在する。根管内を直接検出しようとする器械の最も細いプローブでも0.6 mmであり、これ以上の太い根管でない挿入できないし長さにも限界があり、また根管内壁をすべて検知するのが難しいなどの欠点がある。そして、ナノ粒子は根管内のスマヤー層に非特異的に付着しやす

い、スマヤー層をEDTA等により除去しても象牙細管内に入り込みやすいなどの問題点がある。従来行われているペーパーポイントに細菌を付着させる方法は器械で検出しやすいが、ペーパーポイントに付着する細菌が限られてくるなどの問題点がある。しかし、現時点では根管内に光増感剤を作用させて、可能な限り非特異的に付着している光増感剤を洗浄等で除去して、リーマーやファイル等の根管切削器具に付着してくる切削片を利用する方法が最も良い結果となった。臨床で使用するには今後さらに改良していく必要がある。

**薬学部研究紹介****長期精神的ストレスによるうつ病発症機序の解明を目指して**

薬理学分野 講師 関 健二郎

かつて、抗結核薬として開発されたイプロニアジドや統合失調症の治療薬として開発されたイミプラミンが抗うつ効果を示し、これらに共通した薬理作用から、脳内モノアミン不足がうつ病発症の要因であると考えられてきた。ところがこれらは治療効果を発揮するまでに長期間を要することから、他の生物学的要因が疑われてきた。そこで新たに提唱されたのが1991年のサイトカイン仮説であり、これが長期精神的ストレスによるうつ病発症モデルと考えられている。最近私の研究室では、薬学部6年生の関尾美結さんを中心に、細胞性免疫機構を一過性に活性化させると、脳内でサイトカイン濃度が上昇し、それが青斑核のアドレナリン神経を活性化することを見出した。さらに私たちは、このアドレナリン神経がサイトカインにより活性化される

と、 $\alpha 1$ 受容体が過剰に刺激され、それが脳内報酬系の興奮性神経回路機能を減弱させ、その結果うつ病が発症することをマウスの実験で証明した。これはモノアミン不足仮説に相反する結果であり、新たなうつ病発症機序の解明に向け、一歩前進した成果であると信じている。

なお、本成果は今年3月に仙台で行われた日本薬理学会で発表し(関尾美結、関健二郎)、6月には国際専門誌に論文発表した(Sekio M and Seki K, Int J Neuropsychopharmacol, in press)。本誌は、薬理学分野や精神疾患分野では上位10%以内にランクされており(IF=5.264)、今後も配属学生と共に、奥羽大から少しでも影響力の高い成果を発信できるよう邁進していきたい。

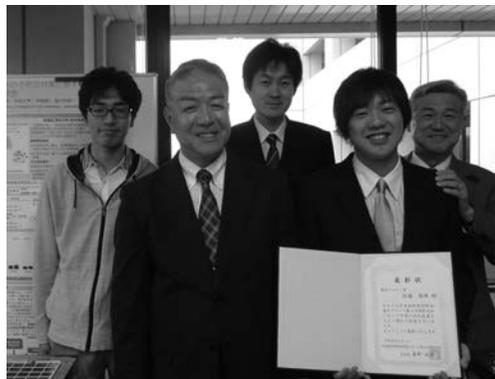
歯科医学教育者ワークショップ

5月16日(金)、臨床講義室をメイン会場として平成26年度第1回歯科医学教育者ワークショップが開催され、続く第2回は8月1日(金)と2日(土)に行われた。このワークショップは、歯学部教員の教育力向上を目指して毎年実施されている。本年度は、第108回歯科医師国家試験の合格率向上を目的とした。

参加者はグループに分かれ、第107回国家試験問題で正答率の低い問題について、その原因を分析し、今後の対策をどのようにすべきかの意見交換を行った。その後、全グループが集まり、それぞれの結果を報告した。それに対して、参加者の中から多くの意見が出され、活発な議論が交わされた。国家試験合格率向上のために改善すべき点や推進しなければならない事柄について、歯学部教員が共通の認識を持って対応していく機会が得られたワークショップとなった。

佐藤瑛典君が優秀ポスター賞受賞

5月31日(土)から6月1日(日)にわたり、仙台国際センターを会場に開催された日本病院薬剤師会東北ブロック第4回学術大会で、薬学部6年生佐藤瑛典君が優秀ポスター賞を受賞した。この賞は優れた研究成果を発表した者に贈られるもので、受賞タイトルは「東日本大震災後の病院薬剤師における防災対策に関するアンケート調査」であった。全参加者約800名、そのうち学生参加者は約50名と数少ない学生参加者からの受賞だった。



受賞に喜ぶ佐藤瑛典君(写真右手前)

歯学部父兄会地域会

6月22日(月)の東京(16組20人)を皮切りに6月29日(日)福岡(5組7人)、7月6日(日)大阪(14組18人)で歯学部父兄会地域会が開かれた。

全体会では、共用試験や国家試験を意識した授業体系とした改革についての説明が行われた。特に6年の体制では教員側の目標、学生側の目標を明確に定めて実施する旨が強調された。

東京会場では、卒業生から、「国家試験の失敗から学んだこと」についての貴重な体験談を聞くことができ有意義な懇談であった。個別面談も行われた。



慶熙大学との交流

姉妹校である韓国の慶熙大学との交流が8月3日(日)から10日(日)の日程で、ソウルの同大学歯学部で行われた。今年度は本学から歯学部4年生2名、5年生5名に引率教員1名を含め8名が参加した。慶熙大学では、学生と教員とが種々の形で多数関わり、心のかもった講義やもてなしを受け、共に有意義な時間を過ごすことができた。慶熙大学のスタッフ全員が本学の学生を心から大切に歓迎してくれたと感じた。本学学生にとっては、一生忘れることができない国際学術交流となった。



自著を語る

『歯内療法における臨床思考の技術』

高橋慶壮(歯学部教授) 2014年4月刊 デンタルダイヤモンド社

本書では歯科医療における臨床思考(臨床推論)の理論と実践方法をまとめました。著者が受けた教育と実践してきた臨床を通じて得た「暗黙知(経験知)」を書籍という「形式知」に体系化した唯一の書籍です。医学教育の先駆者であるWilliam Oslerは100年以上前に「医学は不確実性の科学であり、確率のアートである」と述べています。医療は「事後処理型」の行為であり、常に「結果(病気)」から「原因」を推測して病態を把握し、患者教育と治療を行います。必ずしも臨床推論が正しく行われておらず、しばしば誤診や医原病が起きています。臨床思考は、失敗の少ない歯科臨床を実践するために不可欠の技術です。



基礎棟1階実習室TVモニターシステム更新

歯学部基礎医学研究棟1階の実習室では、平成26年度後期から顕微鏡ハイビジョンカメラ&モニターシステムが導入され、モニターも従来より大きなものになる。これにより顕微鏡実習では、より精密詳細な画像でのデモンストレーションが行われ、画像情報のデータベース化も可能になる。これら画像情報は、学生諸君が観察対象への理解を深め、CBTや国家試験の画像問題によりよく対応できるよう、様々な形で活用される予定。

薬学部新カリキュラムに関する意見交換会

来年度新入生からの薬学教育新コアカリキュラム実施に向けて、薬学部では、新カリキュラム策定委員会及びFD委員会を中心として、8月27日(水)に全教員参加の意見交換会を開催した。テーマは、卒業時到達目標の策定およびその実現に必要な講義・実習の提案である。全体を、薬剤師会・病院薬剤師会よりの外部委員も交えて4班に分け、グループ討議した結果、幅広い意見が聴取できた。今後は、それら意見を基に、独自性のある新しいカリキュラムの作成を目指す。

交通安全講習会

6月16日(月)、記念講堂に於いて、平成26年度交通安全講習会が実施された。

交通安全啓発のビデオ上映後に、第一線の現場に携わる郡山北警察署交通課第一係長である明村英治氏の講話があった。参加者は第一線の現場の話聞き、より一層安全意識が高揚されたようであった。

薬学部1年生の早期体験学習

6月27日(金)から7月19日(土)にかけて、薬学部1年生の早期体験学習の一環として、病院見学が5班に分かれて実施された。本年度は郡山市の星総合病院と会津若松市の竹田総合病院を訪問した。薬剤部、病棟、救急外来、屋上ヘリポート(星総合病院)などを見学し、説明を受け、病院における薬剤師および他の医療スタッフの職務の重要性を学んだ。学生は、薬剤師を目指す動機が更に高まったようである。

薬学部第1回教育研修・講演会

平成26年度薬学部第1回教育研修・講演会は7月10日(木)、第2講義棟第3講義室にて開催された。今回は、山形大学医学部分子病態学講座の一瀬白帝教授が「出血と血栓から患者さんを救うための基礎知識」について講演された。多数の学生と職員が参加し盛況であった。血栓の抑制と止血の管理は医療従事者の関心が高いところであるが、基本的な事柄から、現在取り組んでいる後天性13因子欠損症の症例まで、診断と治療について分かり易く話され、学生はよく理解できたようであった。



薬学部6年生特別実習発表会

7月29日(火)、薬学部6年生の特別実習(卒業研究)発表会が第3講義棟の3会場において開催された。4年次の2月に研究室配属が決まった後、6年次の7月まで病院・薬局実務実習(5年次)をはさみ継続的な研究を行うことが難しい中で、各々の研究が進められた。

当日は、対象学年の4、5、6年生に加え、3年生以下の見学を自由にして、先輩方の研究発表を見る機会を設けた。発表者は見学者にも内容が理解できるよう工夫を凝らして臨んでいた。



薬学部の課外補講

薬学部では4月から薬剤師国家試験対策に取り組んでいるが、今回その一環として、6年生の一部学生を対象とした課外補講を行うことにした。ねらいは、さらなる学力向上を目指して、来年3月の卒業ならびに薬剤師国家試験合格へ導くというもの。要領は次の通り。

【日時】

9月1日(月)～9月6日(土)、
9月8日(月)～9月12日(金) 計11日間

【場所】

厚生施設「無垢苑」、薬学部棟536教室

【参加者】

学生：17名(国家試験戦略委員会、国家試験対策委員会にて選抜)

教員：13名(国家試験戦略委員、国家試験対策委員)

【スケジュール】

9月4日、5日、10日～12日

場所：厚生施設「無垢苑」

9月1日～3日、6日、8日、9日

場所：薬学部棟536教室

薬学部就職先一覧(平成26年3月卒)

【保険薬局】

アポロメディカルホールディングス(株)、(株)アインファーマシーズ、(株)オオノ、クラフト(株)、徳永薬局(株)、日本調剤(株)、日本メディカル(株)、(株)パワーファーマシー、(株)ファーマックス、(有)ファルマ・ブラン、(株)福島医療サービス、(社)ほうらい薬局、(株)丸大サクラキ薬局、(有)みはる調剤、(株)メディカルコスモ、(株)レインボー薬局、(株)ワークイン、(有)ノセ

【病院】

太田熱海病院、北里大学病院、竹田総合病院、星総合病院、総合南東北病院

【ドラッグストア】

(株)富士薬品

【公務員】

山形県職員

【進学】

北海道薬科大学大学院

第57回奥羽大学歯学会

6月21日(土)、臨床講義室にて、第57回歯学会が開催された。一般口演が6演題発表され、それぞれに対して活発な質疑応答があった。当日は評議員会と総会も行われ、昨年度の決算及び活動報告、さらに本年度の予算や活動方針などが承認された。総会後には、学会賞と優秀発表賞の受賞者に対する表彰式が行われた。受賞者は次の通り。

【平成26年度奥羽大学歯学会賞】

猪狩道代助教

「乳臼歯の隣接面を含む複雑窩洞におけるコンポジットレジン修復に関する研究」

【優秀発表賞】

第55回奥羽大学歯学会優秀発表賞

岡本 望助手

「ジルコニアとハイブリッドセラミックスの接着強さに関する研究—表面処理法とプライマー処理法の併用による影響—」

第56回奥羽大学歯学会優秀発表賞

田中絵里大学院生

「顎骨および粘膜におけるアドレナリン血管収縮作用と局所麻酔効果の差異について」

IADR 参加報告

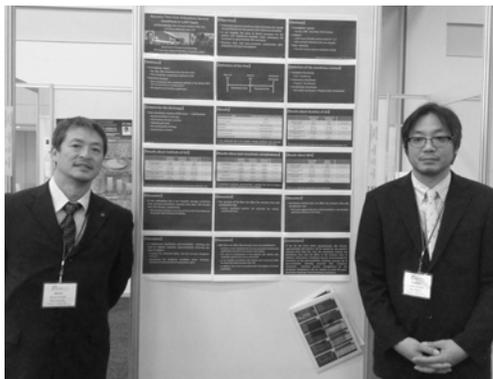
2014年6月26日(木)～28日(土)に南アフリカ共和国ケープタウンで開催された歯科の国際学会で最も大きな学会であるIADR (International Association for Dental Research) に参加し、発表させて頂きました。全部で約1,800演題もの発表がありましたが、これは例年よりも少ないとのことでした。

私の発表は「当院における日帰り全身麻酔1,037症例の統計」と題し、年齢、性別、麻酔方法、合併症、麻酔時間、回復時間を調査したものです。特に、麻酔方法や麻酔時間により回復時間がどのように変化するかを調べました。結果として、吸入麻酔では術後の悪心・嘔吐が多く、静脈麻酔では術後シバリング(ふるえ)が多い結果となりました。他国の諸先生からは、日帰り全身麻酔の合併症が少ないことに感心した内容の質問を頂きました。

学会の全体的印象としては、う蝕、インプラント、歯周病に関する基礎研究の報告が多く、特にインプラントに関するものが多かったと感じました。

歯科麻酔学分野の発表としては、局所麻酔薬や注射針の基礎研究や、精神鎮静法、ペインクリニックなどの報告がありました。歯科麻酔学という特殊性から、各国の法律の違いが色濃く、具体的には、歯科医師による気管挿管が許される国と許されない国の違いがみられます。歯科医師が気管挿管できない国々では、精神鎮静法に頼ることになるため、限界を越えた精神鎮静法の発表がみられます。一方で「精神鎮静法でここまでできるのか?」と考えさせられるところもありました。今回、IADRに参加させて頂き、得た知見を日々の診療に生かしたいと思います。

(口腔外科学講座歯科麻酔学分野 中池祥浩)



発表のポスター前にて(写真右が筆者、左が山崎信也教授)

第2回・第3回大学院特別研修セミナー

5月16日(金)、中央棟教3教室にて、第2回大学院特別研修セミナーが「大学教員の研究活動における倫理」をテーマに開催された。講師は東北大学高度教養教育・学生支援機構 副機構長の羽田貴史教授で、研究不正の概念から研究倫理に関する国際的な動向、さらには今後の取り組み方までの幅広い内容のセミナーであった。

さらに7月25日(金)、第3回の同セミナーが開催された。「医学研究における利益相反のマネジメント」のテーマで、東京医科歯科大学産学連携研究センター長の飯田香緒理教授を講師として行われた。社会から信頼される医学研究を行うために、利益相反をどのようにマネジメントしていくかを具体的な事例を含めて、詳しく解説する講演であった。研究倫理の確立は、本学のような医療系大学の教員には特に強く求められるものであり、どちらのセミナーにも大学院教員及び歯・薬学部教員、さらには大学院生も多数出席した。

大学院研究経過発表会

8月28日(木)、臨床講義室にて、平成26年度大学院歯学研究科研究経過発表会が開催され、8名の大学院生が発表を行った。

この発表会は学位論文の質的な向上を図るために、学位提出の前年度の8月にそれまでの研究成果を大学院担当教員の前で発表し、学位論文として完成させるための助言を受けることを目的としている。本年度も例年同様に、各大学院生の発表に対して大学院教員から多くの助言や論文としてまとめていく上での注意点について丁寧な指導があり、大学院生は熱心に耳を傾けていた。

学位論文をリポジトリで公開

平成25年度に博士(歯学)の学位記を授与された論文12件がこのほど「奥羽大学学術機関リポジトリ」で公開され、これにより誰もがインターネットで『内容の要旨』『審査の要旨』『本文』の全文を読むことができるようになった。平成25年4月、学位規則の一部を改正する文部科学省令によりインターネットでの公開が義務化されたことによる。これまで学位論文の利用は主として印刷媒体によったが、インターネットの公表により、より多くの人の目に触れることになった。外部サイトとも連携し、CiNii Articles、JAIRO、国立国会図書館のデータベースでの検索もできる。

アドレスは<https://ohu-lib.reponii.ac.jp/>

奥羽大学若手奨励研究の採択

昨年度から、本学の若手教員への研究奨励を行うことを目的として、学内採択制の研究助成費制度が設けられた。これは学内から応募があった研究者1名につき研究費100万円を支給するもの。本年度の募集は4月に行い、歯学部5名、薬学部4名の応募を受けて6月に書類審査および応募者のプレゼンテーション審査を行った。その結果、3名の若手教員が選考された。6月16日(月)午後1時から、学長室にて若手研究奨励賞授与式を行い、赤川安正学長から研究奨励と成果を期待する旨の訓示が述べられた。

【若手研究奨励賞受賞者】

歯学部（基礎系） 湯澤 仁助教
 口腔機能分子生物学講座 口腔生化学分野
 歯学部（臨床系） 細谷尚史助教
 成長発育歯学講座 歯科矯正学分野
 薬学部 佐藤安訓助教
 衛生化学分野



科研費採択状況(再掲載)

前号掲載の「科研費採択状況」<新規>分に誤りがありました。正して全体を再掲載します。

<継続>

日本学術振興会交付

研究種目	所属	職名	氏名	研究課題名
基盤研究B	歯学部	教授	赤川安正	バイオプロセッシングを用いる機能性インテリジェント複合インプラントの新開発
基盤研究C	薬学部	講師	関 健二郎	てんかん発作に及ぼすエストロゲンのHCNチャネルとGluR2制御機構の解明
挑戦的萌芽研究	歯学部	教授	加藤靖正	転写抑制因子としてのSPARCの痛転移への役割
		教授	赤川安正	アルツハイマー病と歯の喪失との関連メカニズムの分子基盤
		准教授	今井 元	摂食中枢とネットワークを形成する成長/生殖調節神経の発生を再現できる培養系の開発
若手研究B	歯学部	助教	茂呂祐利子	低出力レーザーの作用機序に関する基礎的研究—フリーラジカル制御による検討—
		講師	濱田智弘	パーキンソン氏病患者における顎運動の解析
		助教	前田豊信	歯由来幹細胞の口蓋裂部移植におけるMTAの役割
	薬学部	講師	木田雄一	既知特性をもつ複数事象の目的関数への組み合わせ最適化法の最適信号近似理論に基づく研究

<新規>

研究種目	所属	職名	氏名	研究課題名
基盤研究C	歯学部	教授	清浦有祐	抗体医薬の使用に伴うカンジダ症に対する科学的根拠に基づいた予防法の確立
		教授	高橋慶壮	口腔内好中球ミトコンドリア機能制御による歯周治療の可能性を探る
		准教授	玉井利代子	歯周病原性細菌の宿主細胞への侵入におけるC型レクチン受容体の役割
挑戦的萌芽研究	薬学部	教授	西屋 禎	常活性型蛋白質の分解不活化を誘導する新規E3ユビキチンリガーゼの生理機能の解明
若手研究B	歯学部	助教	小野哲也	機能性薄膜を用いたインスリン自動放出制御システムの構築と革新的DDSへの展開
	薬学部	講師	川原一郎	地震・原子力災害における歯科医療対応の指針策定に関する研究
	薬学部	助教	吉田健太郎	電気刺激応答制御可能な次世代薬物放出制御メディカルデバイスの開発



今年も“奥羽祭”が近づいてきました。
 学友会のみなさんはますます準備に余念がありません。
 ところで学友会の組織や活動についてどの程度ご存知ですか？
 このコーナーではクラブやサークルを順次紹介していきます。
 “奥羽祭”の奥深さやクラブの内容などが分かってきます。
 大学生を送る秘訣が見えてきますよ…

(編集部)

学友会の組織ってご存知ですか？

私たち学友会は、主に学生主導の学校行事の企画と運営、クラブ・同好会の総括を行っています。

学友会は、総務局、企画局、コンサート局、広報局、財務局の5つの局で構成されます。

総務局は、各行事において学校や各クラブ・同好会に対するの確認作業、及びそれに必要となる書類の作成、当日の警備などを主な活動とし、模擬店や室内展示などの出店に関することを担当します。

企画局は、各行事における企画書の作成、及びそのタイムスケジュールや人員配置など運営に直接関係する箇所を担当します。

コンサート局は、奥羽祭における著名人ゲストに関する企画に特化した局です。仲介する会社との打ち合わせを入念に行い、“コンサート”と称する著名人によるステージ企画を計画します。

広報局は、学内で配布するクラブ紹介冊子や奥羽祭のポスター・パンフレットの作成など大学内外への広報活動を主に担当します。

財務局は、年間を通じてかかる金銭の管理を担当します。学校から毎年支給される学友会活動費より、球技大会やクラブ・同好会の部活動費、コンサートを含めた奥羽祭全体にかかる金銭を管理し、正しく運用されているかを確認しています。

最終的な予算・決算の監査は、顧問の教授同席の下に厳格に行われています。

各局で活動し総括を行うことで、入学式におけるクラブ紹介、球技大会、奥羽祭を運営しています。

学校外との関わりが多く大きな責任がありますが、学校行事が終わった後には達成感があり、とてもやりがいのある組織です(K)。



附属病院

院内BLS/AED講習会

6月27日(金)から7月18日(金)までの間に、計6回の院内BLS/AED講習会が本学病院棟5階の臨床講義室で開催された。本学の研修歯科医と新規採用の教職員を中心とした約50名の受講生が、約1時間、自動体外式除細動器を用いた一次救命処置を学習した。研修歯科医の方々は、学生時代に実習した内容を思い出しながら、教職員は、楽しみつつも真剣に一次救命処置を受講していた。



高齢者・要介護者施設の実務研修

歯学部附属病院では高齢者・要介護者の嚥下障害(飲み込みの障害)に対応すべく、福島市の高齢者・要介護者の総合施設である医療法人生愛会で、平成25年7月より病院スタッフの実務研修を実施している。研修内容は嚥下内視鏡を用いた飲み込み状態の検査、口腔ケア、訪問指導同行等多岐にわたる。また、平成26年4月より臨床研修協力施設として研修歯科医を派遣、上記の研修に加えて利用者への接遇講習、車イスから歯科用ユニットへの移乗、歯科診療の介助も行っている。



臨床教育セミナー特別講演会

6月12日(木)、臨床教育セミナー特別講演会が臨床講義室で開催された。奥羽大学歯学部同窓会副会長であり、福島県本宮市で開業されている国分篤氏が講師にお迎えし、「これからの若い歯科医師に語りたいこと」と題して、本学大学院卒業後の自身の失敗談を織り交ぜ、開業後の他方面にわたる貴重な興味深い経験を講演された。研修歯科医のみならず教職員も熱心に聴講した非常に有意義な講演会であった。



第1回研修歯科医派遣式

7月2日(木)、地域医療短期研修プログラム前半組6名と地域医療長期研修プログラムを選択した4名の派遣式が行われた。派遣先は福島県1名、宮城県1名、茨城県1名、栃木県3名、千葉県2名、秋田県1名、鳥取県1名であり、研修歯科医はそれぞれ4カ月と8カ月の研修を行うことになる。

式では研修歯科医が呼名され、杉田病院長からの訓示、プログラムの特徴と修了認定、研修心得の伝達の後、それぞれの研修歯科医から力強く決意表明があり、出席者からの激励の拍手に見送られた。



学校法人晴川学舎 平成25年度決算報告

1. 資金収支計算書

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異
収入の部	学生生徒等納付金収入	2,150,110,000	2,128,394,200	21,715,800
	補助金収入	321,874,000	267,845,000	54,029,000
	その他の収入	1,932,441,000	2,212,498,682	△ 280,057,682
	前年度繰越支払資金	1,142,283,188	796,107,674	346,175,514
	収入の部合計	5,546,708,188	5,404,845,556	141,862,632
支出の部	人件費支出	2,107,488,000	2,134,778,108	△ 27,290,108
	教育研究経費支出	846,727,000	766,536,988	80,190,012
	その他の支出	880,870,000	1,554,995,685	△ 674,125,685
	次年度繰越支払資金	1,711,623,188	948,534,775	763,088,413
	支出の部合計	5,546,708,188	5,404,845,556	141,862,632

2. 消費収支計算書

(単位:円)

科 目		予 算	決 算	差 異
収入の部	学生生徒等納付金	2,150,110,000	2,128,394,200	21,715,800
	補助金	321,874,000	267,845,000	54,029,000
	その他の収入	835,073,000	887,963,717	△ 52,890,717
	帰属収入合計	3,307,057,000	3,284,202,917	22,854,083
	消費収入の部合計	3,307,057,000	3,284,202,917	22,854,083
支出の部	人件費	2,106,142,000	2,127,101,460	△ 20,959,460
	教育研究経費	1,474,932,000	1,404,333,604	70,598,396
	その他の支出	441,427,000	365,474,270	75,952,730
	消費支出の部合計	4,022,501,000	3,896,909,334	125,591,666
	当年度消費支出(収入)超過額	△ 715,444,000	△ 612,706,417	—

3. 貸借対照表

(単位:円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資産の部	固定資産	35,763,135,025	36,874,568,983	△ 1,111,433,958
	有形固定資産	11,529,516,407	12,004,877,272	△ 475,360,865
	土地	1,687,228,194	1,687,228,194	0
	建物	6,243,047,784	6,544,139,946	△ 301,092,162
	教育研究用備品・図書他	3,599,240,429	3,773,509,132	△ 174,268,703
	その他の固定資産	24,233,618,618	24,869,691,711	△ 636,073,093
	減価償却引当特定資産他	24,233,618,618	24,869,691,711	△ 636,073,093
	流動資産	1,783,738,343	1,191,504,976	592,233,367
	現金預金	948,534,775	796,107,674	152,427,101
	未収入金他	835,203,568	395,397,302	439,806,266
資産の部合計	37,546,873,368	38,066,073,959	△ 519,200,591	
負債の部	固定負債	1,171,900,004	1,129,563,894	42,336,110
	退職給与引当金	1,121,887,246	1,129,563,894	△ 7,676,648
	長期未払金	50,012,758	0	50,012,758
	流動負債	522,520,100	471,350,384	51,169,716
	未払金	151,634,802	137,910,539	13,724,263
	前受金他	370,885,298	333,439,845	37,445,453
負債の部合計	1,694,420,104	1,600,914,278	93,505,826	
基本金の部合計	32,002,357,229	32,037,198,424	△ 34,841,195	
消費収支差額の部合計	3,850,096,035	4,427,961,257	△ 577,865,222	
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額の部合計	37,546,873,368	38,066,073,959	△ 519,200,591	

追悼



藤井先生を偲んで

藤井史郎先生は、平成9年4月1日、文学部フランス語フランス文学科助教授として本学に着任された。その2年後、教授になると同時に同学科長に任ぜられ、文学部が廃部となる平成19年3月31日までその要職にあられた。それからは歯学部に移られ、「英語」を担当されながら、多くは第1学年主任教授として引き続き学生の指導に当たってこられた。当奥羽大学報委員会でもリーダー的存在であったが、惜しくもこの8月8日に亡くなられた。

先生は、東京外国語大学フランス語科を卒業後、早稲田大学大学院文学研究科に進まれて、20世紀フランスのカトリック作家フランソワ・モーリヤックを研究された。私は、同じく20世紀フランス文学に学ぶ者として、先生の令名はつとに存じ上げてはいたが、お会いしたのは、先生が本学に着任される直前の郡山駅においてが初めてであった。二人して駅前の郡中不動産に行き、目星をつけた最初のアパートに早速、居を定めたのが、ついこの間のことのように思い出される。

モーリヤック研究者としての先生を知るには、著書『「テレーズ・デスケルー」あるいは曖昧の技法』（早美出版社、平成19年2月）を紐解くに如くはない。その〈あとがき〉に、「専攻する作家の翻訳ができることの喜びは筆舌に尽くし難い」とあるが、実際、『モーリヤック著作集』（春秋社、昭和52～54年）に収められた先生の訳になる「医院でのテレーズ」「ホテルでのテレーズ」「フロントナック家の神秘」を読むことこそ、何よりの追悼になるのかもしれない。

さて、しかしながら、先生の本領はその学生指導にあった。つねに学生の立場にたって考え、行動なさった。学生の味方だった。そうした先生の教え子たちが生きている間は、先生も消えはしない。彼らの心の中で先生も生き続ける。

だが、それにしても、「藤井先生、もう少し長く、フランス語を教えたかったですね。フランスの文学作品を学生たちと共にもっと読みたかったですね。」

命の営みのなんと情け容赦のないことか。

合掌

(榊原 直文)

藤井史郎先生の主な著作物（図書館調べ）

- ・『テレーズ・デスケルー』あるいは曖昧の技法 早美出版社 2007.2
- ・アガグック物語—極北に生きる イヴ・テリオ著 共訳 彩流社 2006.4
- ・ユヌ・アヴァンチュール 2訂版 共著 早美出版社 2003.3
- ・イサム 共著 早美出版社 1998.3
- ・世界樹木神話 ジャック・プロス著 共訳 八坂書房 1995.10
- ・モーリヤック著作集 第1～6巻 遠藤周作編 各巻の解題と翻訳「医院でのテレーズ」、「ホテルでのテレーズ」、「フロントナック家の神秘」 春秋社 1982～84

同窓会だより

齊藤 秀樹 (山梨県支部 歯学部20期生)

同窓の先生方におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

大変ご無沙汰しておりますが、いかがお過ごしでしょうか。私は山梨県南アルプス市で開業し、日々の診療を通じて、地域医療に精進しております。また、山梨県支部の会計を担当させていただき、支部長の小林充先生(3期生)を中心に、同窓の先生方と仲良く会務をさせていただいております。

さて、最近の山梨県支部の年間の活動ですが、年4回定期懇親会を開催し、その他に毎年3月に総会をかねて、富士の河口湖へ旅行に出かけています。同窓の先生方と夜更けまでお酒を飲み、昔の郡山での思い出から、歯科界の現状の話まで、楽しく語り合おうのは、明日からの診療の活力になる良い機会であります。是非これからも続けて行きたいと考えております。

また、今年度は診療報酬改定の講習会を、山梨県歯科医師会の保健部の先生をお招きして、7月26日(土)に行いました。活発な意見が飛び交い、とても有意義な会でした。年に1回は学術講習会を開催しており、数年前には荻野久先生(7期生)を中心に山口敏雄教授をお招きして開催しました。これからも母校から講師の先生をお招きしての学術講習会を行い、診療のスキルアップと同時に、同窓の和を強固にしていきたいと考えております。

現在、福島県はいまだ震災の爪跡が残っていて復興の途中であり、母校もその影響を受けて大変な時期ではありますが、こんな時こそ同窓の繋がりを大事にしていく時だと思えます。山梨県支部は会員23名の小さな支部ですが、一致団結して、郡山から300キロ離れた富士山のふもとの街から、母校を応援していきたいと思えます。

同窓生のひろば



篠島 祥一 (歯学部2期生)

同窓生の皆様こんにちは。私は北陸連合地区福井県出身の2期生の篠島です。

早いもので卒業してからもう36年が経ちました。最初に郡山駅前に降り立った時感じたことは、頬っぺたの赤い女の子が多いということでした。そして大きな街なのに舗装されていない砂利道があちらこちらにあったりして、郡山よりずっと小さな私の故郷の大野市の方が全部舗装されているのに不思議な感じがしました。

当時は学生の数も多く2期生で180名を超えていました。また、学生時代はよい友人にも恵まれ試験、実習と助けられました。国家試験の時も私は実習が下手で補充ケースとなってしまい、国家試験の勉強があまりできませんでした。先生や同級生の国家試験対策員のおかげで合格することができました。2期生は全員合格でした。今思いますと学生時代は友人との繋がりが一番大切だと思います。

昭和54年に卒業後は浜松医大歯科口腔外科に入局し、58年に父の後を継ぎ開業しました。父が私が大学6年の時に病気で亡くなりました。開業後しばらくして、北陸三県で同窓会を作ろうという話になりまして、当時4期生くらいまでの先生方が集まり、初めての支部会が行われました。

岡前同窓会長も1回、福井の方に来て頂きました。その夜はかに料理の懇親会で翌日は観光ということで、敦賀原発にも近かったので見学に行きました。原発の前の海で釣りをしている人がいたりして、のどかな感じを受けました。しかし、東日本大震災以降は原発は停止したままです。その時は原発がそんなに恐ろしい物になるとは思っていませんでした。震災は原発のある地元や、それに関わる人達にも大きなダメージを与えました。奥羽大学も震災以降は入学者数が激減したことが心配です。なんとか震災前の状態まで戻ってほしいと願っています。

最後になりましたが北陸連合では毎年1回、関西支部の先生方も交えて支部会及び懇親会を1泊して行っています。気楽な会ですので少しでも多くの会員の先生方に参加して頂きたいと思っていますので、今後とも宜しくお願い致します。



佐藤 サト (旧姓: 宗形)

(文学部英語英文学科8期生)

この度、奥羽大学報の原稿依頼を頂戴し大変恐縮しましたが、懐かしさも手伝って筆を執ることに致しました。乱文をお許ください。

在学当時お世話になりました諸先生方、大学関係者様、そして同窓生の皆様、お変わりございませんか。

奥羽大学在学中は周りが心配するほど好奇心旺盛で、履修科目はもちろんのこと2つのサークル活動、家庭教師のアルバイトなどに全力で取り組んでいました。そして、卒業式では晴川賞を頂戴し、そのメダルは今でも学生時代の思い出と共に大切にしております。

大学卒業後は、地元の病院にて医療事務や院長秘書、家庭教師や学習塾の教室長など様々な経験をして参りました。そして、現在は中学時代に将来の夢として掲げていた“英語の教員”となり、地元の私立高等学校で教鞭を執っております。業種は違えど、今までの職場で培ってきた社会人としてのマナーや経験は、少なからず現職でも役に立っていると自負しております。

また、2011年3月11日には“東日本大震災”を体験し、人と人との絆、生きていることへの感謝を痛感しました。そして、教員という立場上、体力的にも精神的にもタフさが求められました。教え子たちの心のケアにどう向き合っていくべきか、現在も試行錯誤を繰り返しています。巣立っていった教え子たちが力強く成長していくことを願ってやみません。

大変なことは多々ありますが、生徒たちと喜怒哀楽を分かち合い、大好きな英語を教授する毎日はとても有意義で幸せを実感しております。

ただ一つ残念なことは、文学部が現存していないことでしょうか。教え子たちに奥羽大学出身であることを告げると「理系大学ですよね?」と不思議な顔をされます。仕方のないことではありますが、何とも表現し難い寂しい気持ちになります。しかし、学部は違えど奥羽大学に進学していく教え子たちを見ていると、大変嬉しく感じるのも事実です。

微力ではありますが、これからも教え子一人一人に寄り添い、一社会人として地元へ貢献して参ります。

最後に、母校奥羽大学のさらなる発展と皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

人 事

〈任用〉	和 田 重 雄 准 教 授	薬 学 部	9月 1日付
〈退職〉	鷺 井 健 一 主 任 教 授	企画・広報課 歯学部英語学	6月30日付 8月 8日付

平成27年度入学試験日程

入試区分	募集人員	日 程				試験会場		
		出願期間	試験科目	試験日	合格者発表			
歯学部	推薦	10名	H26.10.27(月)～H26.11.6(木)	・小論文・面接	H26.11.9(日)	H26.11.11(火)	本学	
	一般選抜	一期	30名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・必須 英語(I・II) ・選択 「数学(I・II・A)」「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」の4科目のうち1科目を試験会場で選択	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学 仙台 東京 大阪
		二期	16名	H27.2.2(月)～H27.2.16(月)	・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程の範囲との共通部分から出題する	H27.2.18(水)	H27.2.20(金)	
	特待生選抜	30名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・必須 英語(I・II) ・必須 数学(I・II・A) ・選択 理科「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」3科目のうち1科目を試験会場で選択 ・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学	
	AO	一期	5名	H26.9.8(月)～H26.9.25(木)	・面接	H26.9.28(日)	H26.9.30(火)	本学
	同窓特別	一期	5名	H26.9.8(月)～H26.9.25(木)	・面接	H26.9.28(日)	H26.9.30(火)	本学
	編入学	随時	若干名	H26.9.8(月)～H27.3.20(金)	【2年次編入】 ・小論文・面接 【3～4年次編入】 ・学力試験・面接	願書受付後 日程調整のうえ 随時実施	試験実施後 3日以内	本学
薬学部	推薦	40名	H26.10.27(月)～H26.11.6(木)	・面接	H26.11.9(日)	H26.11.11(火)	本学	
	一般選抜	一期	40名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・選択 「英語(I・II)」「数学(I・II・A)」の2科目のうち1科目を試験会場で選択 ・選択 理科「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」3科目のうち1科目を試験会場で選択	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学 仙台 東京
		二期	20名	H27.2.2(月)～H27.2.16(月)	・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程の範囲との共通部分から出題する	H27.2.18(水)	H27.2.20(金)	
	特待生選抜	30名	H27.1.7(水)～H27.1.21(水)	・必須 英語(I・II) ・必須 数学(I・II・A) ・必須 理科「化学基礎・化学」 ・選択 理科「物理基礎・物理」「生物基礎・生物」2科目のうち1科目を試験会場で選択 ・必須 面接 ※数学及び理科は各科目とも旧課程との共通部分から出題する	H27.1.25(日)	H27.1.29(木)	本学	
	AO	一期	10名	H26.9.8(月)～H26.9.25(木)	・面接	H26.9.28(日)	H26.9.30(火)	本学
編入学	随時	若干名	H26.9.8(月)～H27.3.20(金)	【2年次編入】 ・小論文・面接	願書受付後 日程調整のうえ 随時実施	試験実施後 3日以内	本学	

奥羽大学報143号(通算No.268)平成26年9月1日発行
 発行 奥羽大学
 学報編集委員会
 委員長 赤川 安正

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
 電話 024(932)8931代 FAX 024(933)7372
 ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
 メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。